

月刊

さわやか

第44号
平成22年12月15日

《発行》
(社)日野市シルバー
人材センター
日野市日野本町2-4-7
0421581-8171

就業者はどのように選考されるのか

公共職場の場合 就業調整委員会が判定基準をもとに

本紙は9月号(第41号)1面で「地域班会議ではこんな質問が」と題して、就業に関する質問、とくに就業者の選考に関する質問が多いと報じました。そこで今回は、その選考がどのように行われるのかを取り上げます。就業者は公共職場と民間職場に大別されます。まず、公共職場の場合を見てみましょう。

公平、適性が原則・大前提

公共職場の就業者の選定は、就業調整委員会が行っています。同委員会の構成と役割については本紙ですでに説明していますが、改めてのべますと、構成は総務部長、事業部長、事務局長および地域班長2名の計5名で、総務部長が委員長を務めます。就業者の選考は職場ごとに行

主な判定基準とは.....

- 未就業期間が長期の方
- 申込み回数が多い方
- 過去の実績評価
- 健康状態
- 利用交通機関
- 希望職種・現役時の職種
- 年齢
- 入会理由

地域班会議、一斉清掃等への参加を加味するかどうかは賛否両論。

いますが、応募者が募集人員を上回る場合、一定の判定基準をもとに協議して決めます。その主要な基準は、別表のとおりです。その際、特定の人物に便宜が図られるのではないかと、という質問がよく出されますが、そういうことはありません。どの会員に対しても就業機会の公平を図り、会員の希望と適性に応じて調整するのが

会員数

平成22年10月31日

1,751名

男性 1,336名

女性 415名

入会者数
10月 26名
(男17名、女9名)

但し、退会者15名

が原則であり、大前提です。にもかかわらず、この点の疑問が絶えないのはなぜでしょうか。

不適格者を防ぐには...

それは、主な判定基準だけでは分からない部分、とりわけ適性に関する情報の欠如などから、たまに一人、二人、不適格な人が選定されることがあるからです。数の上ではごく少数と思われませんが、そのような就業者は市民や就業仲間とトラブルを起こしやすく、それが大きく目立ちます。

では、どうすればいいか。各所からは、いろいろな改善案が出されています。

第一は、書類選考だけでなく面接を取り入れるという案です。面接は応募者全員が望ましいが、最低選考された人を対象に。

第二は、就業決定者に試用期間(たとえば3カ月)を設ける案。

第三に、適性に関する情報(たとえば入会面談などの)を系統的

に利用するシステムをつくる案、等々。また、判定基準に、地域班会議や一斉清掃などへの参加の有無も加味せよ、との提案もあります。センターでは、検討が始まっています。(次回は、民間職場の場合を取り上げます。)

就業期限確認書を交付

きたる1月4日から公共職場に就業する13名に対し、就業期限確認書の交付式が12月3日、センター会議室で行われました。北村会長は挨拶で、就業の形態は請負契約であつて雇用ではないと強調しました。一同を代表して系井運平氏(平山2班)が北村会長から確認書を受け取りました。



北村会長(右)から交付を受ける系井氏

Bブロックが一斉清掃

日野駅周辺で4班51名参加

各自の担当地域の
ゴミ集めに向かいま
した。
みずほ銀行裏の

雲一つない晴天の12月5日(日)午前8時、JR日野駅前に、Bブロックの4班(新町・神明・大坂上・日野台1)の会員計51名(うち女性11名)が集合、手分けして駅周辺の清掃活動を実施しました。これは、さる10月17日の全地域班一斉清掃に続くもので、ブロック単位では初めての社会奉仕活動です。



日野駅前に集合

新町班の吉野班長が挨拶で作業内容(落ち葉を除く)の収集と終了時間を伝えた後、一同は

通りには吸い殻入れをひっくり返したらしくタバコの吸い殻が散乱していましたが、慣れた様子であったという間に回収。数日前、朝の雨が上がった影響かビートル傘5本も捨てられていました。いつも多いJR沿線の公園は、この日、地域の方々が清掃活動をしていました。

参加者の多かった日野台1班の廣澤班長はその理由を、新入会員の人はボランティア活動について丁寧な説明を受けていますからと語っていました。

当センターを
新公益法人として認定
東京都審議会が答申

当センターはさる7月、公益社団法人への移行認定申請(それってなに?参照)を東京都公益認定等審議会に提出しました。その結果、同審議会より11月22日、「認定の基準に適合する」との答申を受けました。続いて来年3月までに、東京都知事による認定書の交付を待つこととなります。

就業期限確認書交付式で

統括リーダーが研修会

交付式参加者13名の内訳は、公共施設6名、学校関係5名、スポーツ施設2名。公共施設グループでは、高木統括リーダーが特に苦情が多いトラブルについて、具体的な事例をあげて説明しました。質疑では、判断に困った時の対応について高木リーダーが参加者に意見を求めたところ、経験のある会員から相次いで発言があり、和やかな対話の場となりました。

学校関係のグループでは、新任の統括リーダーの片山氏が説明、「接遇の徹底」に力を入れたいとのべました。スポーツ施設グループでは、橋本統括リーダーが「安全就業基準」を詳しく説明。北村会長も同席し、発言しました。

12月の就業報告書は1月5日までに

12月の就業報告書は遅くとも年明け5日までに、事務局に届けてください。12月29日(1月3日)は事務局が休みですのでこの間は駐車場入口の赤いポストに投函してください。

理事会二ニュース

第8回理事会 11月30日

審議事項 正会員の入会、SC事業の適正な運営について報告事項 公益社団法人の認定、SC事業予算確保のための要望活動、役員賠償責任保険の加入、10月事業実績、各専門部会・安全管理委員会の活動報告

「センター」行事日程

3月15日(火) 地域班長会議
生活・保健センター
3月25日(金) 第61回定期総会 七生公会堂

第2回全地域班一斉清掃(10月17日)の参加者は457名でした(前年同期 10月18日 482名)。

訃報欄 該当者はありません。

配分金の支払日

- 12月20日(月)
- 1月20日(木)
- 2月18日(金)
- 3月18日(金)
- 4月20日(水)
- 5月20日(金)
- 6月20日(月)

今年度第3回 AED講習会

公共施設から6名が参加

今年度第3回のAED(自動体外式除細動器)の講習が11月15日、当センター会議室で行われ、6カ所の公共施設から1名づつ、6名が参加しました。全員が未経験者です。

安全管理委員会の渡辺理事が日野消防署防災課から来られた和田隆講師と横山幸平氏、田中辰巳氏を紹介しました。

和田講師がAEDについて、「倒れた人を発見したとき応急処置をする機器で、怖くないものです」と前置きし、3人で機器操作のお手本を示しました。続いて早速実践です。

まず、倒れている人(人形を使う)に声をかけるところから始まり、人工呼吸、心臓マッサージ、そしてAEDの装着という手順で全員が実習しました。指導を受けた参加者から多くの質問が出され、講師たちはそのつど丁寧に答えました。

東部会館で就業している薄井

文雄氏は、1分間に100回の速さで行う心臓マッサージを30回やったところ汗をかき、「これはかなり堪える」と話していました。

勤労青年会館で就業している伊藤義視氏は「まったくやった経験がないので参加してみたが、実際AEDに触れてみただけでも実感としてつかめた」と感想を語っていました。

次回(第4回)は来年2月に予定しています。

設置場所では、例えばば下のようなマークがあります。



心臓マッサージの講義

フェア・エイト 女性会員交流会(詳報)

第七ブロック8市SC(シルバ人材センター)の催しフェア・エイト(10月28日、多摩市で開催)の女性会員交流会の続報です。

4SCが女性組織を推進

話題の中心は、これまでの交流会と同様、女性会員を増やしたいが、女性の就業場所が少ない。そのため家事援助事業や、子育て事業に取り組んでいるが、都や市からの補助金確保や施設探し等が大変」と言った問題です。

取り組みの体制として、府中市SCには女性就業推進委員会があり、狛江市SCは今年8月に女性部会をスタート。町田市SCは女性事業の立ち上げを準備中です。稲城市SCでは技術、能力を高めるための研修をしているとのこと。

多摩市SCでは、女性委員会を作るのはまだだが、ボランティア委員会があると云います。一時保育事業として成功した調布市SCのピノキオは、今では「ピノキオ班」として独立したと報告がありました。

「生き生きカルチャー教室」講師募集(4月開講分)申込み(12月28日(火)までに担当・沼田へお電話ください。土・日・祝日の開講不可)

例 「講座」

- 1 文学・歴史・教養講座(古典、漢詩、小説、短歌、俳句、川柳、歴史など)
- 2 アート講座(水墨画、絵手紙、木版、ちぎり絵、写真、生け花、茶道、書道、手芸、パッチワーク、工芸など)
- 3 外国語講座(韓国語、中国語、英語、フランス語、スペイン語など)

それってなに? 移行認定申請

新公益法人制度のもとで、シルバ人材センターなど社団法人が生き残るためには、公益社団法人としての認定を受けなければなりません。認定を与える主務官庁は各都道府県ですが、この認定の是非を審査する機関があり、当センターの場合、東京都の58SCと同様、「東京都公益認定等審議会」がその任に当たります。したがって、各SCはまず同審議会あてに認定のための申請書を提出します。これを「移行認定申請」と云います。

公園管理・草取り班が刈払機研修会

旧市立病院跡地で 計38名が参加

当センターの刈払機研修会が11月10日、旧市立病院跡地で行われました。今回は、一昨年、昨年に続いて3回目。前2回が主として未経験者対象だったのに対し、今回は全員が経験者。

目的は、事故防止・安全就業の意識向上のため。参加者は計38名。内訳は公園管理就業者24名と草取り班14名で、市内10カ所以上の職場から集合しました。



機械を装着して、さあ実習

橋本安全管理委員長は「こうした事故が起きないようにできると考えて実習して欲しい」と呼びかけ、安藤事務局長も「事故の無いよう」と挨拶しました。

毎回講師をしている山中康臣氏（元草刈り班班長）は、「他の人の作業を見て自分と比較して学んでほしい」と、「見取り稽古」を強調。また、「石は必ず飛びます。特にナイロンコードは30〜40メートル飛ぶ」少しでも飛ばさないためには、「教科書で言う5度傾けてではなく、水平に刈ってほしい」と注意を促していました。

今回は7台の刈払機を使用。多くはチップソーですが、公園就業者の参加に配慮してナイロンコードをも使用しました。

現場には駐車場もあり60台ほどが駐車、車の近くでは必ず養生ネットを張り、絶対に事故を出さないよう一同気を配りました。緑道維持管理の業務に就業し

ている旗野氏は、まだ扱いに慣れてない人に刃の角度や刈り方のコツ等を細かく指導していました。

今年度事故計6件

さる10月29日午前、植木手入れ作業中だった男性(67)は、お茶の時間に出された菓子皿を破損し、損害賠償事故となりました。この結果、当センターの今年度事故件数は傷害3件、損害賠償3件の計6件となり、昨年度の計5件を上回りました。

事故報告は直ちに事務局へ!

最近、事故報告が遅れるケースが相次いでいます。就業中に事故を起こした会員は、事故の内容にかかわらず、直ちに事務局に報告してください。遅れると対応に支障をきたしますので、励行するよう改めてお願いいたします。

(安全管理委員会)

市実施の特定健診、生き生き健診は必ず受けましょう

問合せ先 市健康課、保険年金課

お元氣ですか

今年も師走の時期となった。そこで「師走の語源・由来」を調べると、師走は当て字で、語源は次の通り諸説があり正確な語源は未詳のようだ。主な語源説として、師匠の僧がお経をあげるために東西を馳せる月と解釈する「師馳す(しはす)」がある。この説は平安末期の「色葉字類抄」(いろはじりしよつ)に「しはす」の注として説明されているようである。

現代の「師走」と漢字の意味も近く、「師馳す」説は民間語源で、この説を元に「師走」の字が当てられたと考えられるようである。その他「年が果てる」意味の「年果つ(としはつ)」が変化したとする説、「四季の果てる」を意味する「四極(しはつ)」が変化したとする説、「一年の最後になし終える」意味の「為果(しはつ)」からとする説、等々...

これに関する四字熟語に「師走浪人」「師走坊主」などがあるが、そうならないよう年末のばたばたを避けるには日頃から仕事を持ち越さず日々けじめをつけておこう。

(飯森 佳明)

(平成22年度安全標語佳作から) 昇り降り 確認しつつ 歩を進め 田中 富士人(西平山)